

令和元年度 市民満足度調査結果（概要版）

平成30年に策定されました第5次垂水市総合計画に定められた9つの政策は28の政策展開から成立しており、その取り組みと「まちづくりの進め方」について、市民のみなさまがどのように考え、何を求めているか、市民ニーズを的確に把握するため、調査を実施いたしました。

【1 調査方法】

- ①調査期間 令和元年8月16日～9月3日
- ②調査対象 市内在住の18歳以上の市民
- ③対象者数 1,000人
- ④抽出方法 比例配分法 ※振興会の人数、年代、性別の構成比を考慮し、無作為に抽出
- ⑤調査方法 無記名調査 ※5段階評価及び自由記述で構成

【2 回収結果】

今回の回収数（回収率）は、前回より若干低下しましたが、829件（82.9%）と8割を超える回答をいただきました。

	回収数	配布数	回収率
令和元年度	829件	1,000	82.9%（▲6.3%）
平成28年度	892件	1,000	89.2%

回答いただいた829件の構成については、次のグラフに示すようになりました。

図1では性別の構成を示し、男性375件（45%）、女性421件（51%）、未記入33件（4%）となり、図2では年齢別の構成を示し、18～19歳は1件（0%）、20～29歳は44件（5%）、30～39歳は69件（9%）、40～49歳は85件（10%）、50～59歳は149件（18%）、60～69歳は247件（30%）、70歳以上は209件（25%）、未記入は25件（3%）でした。

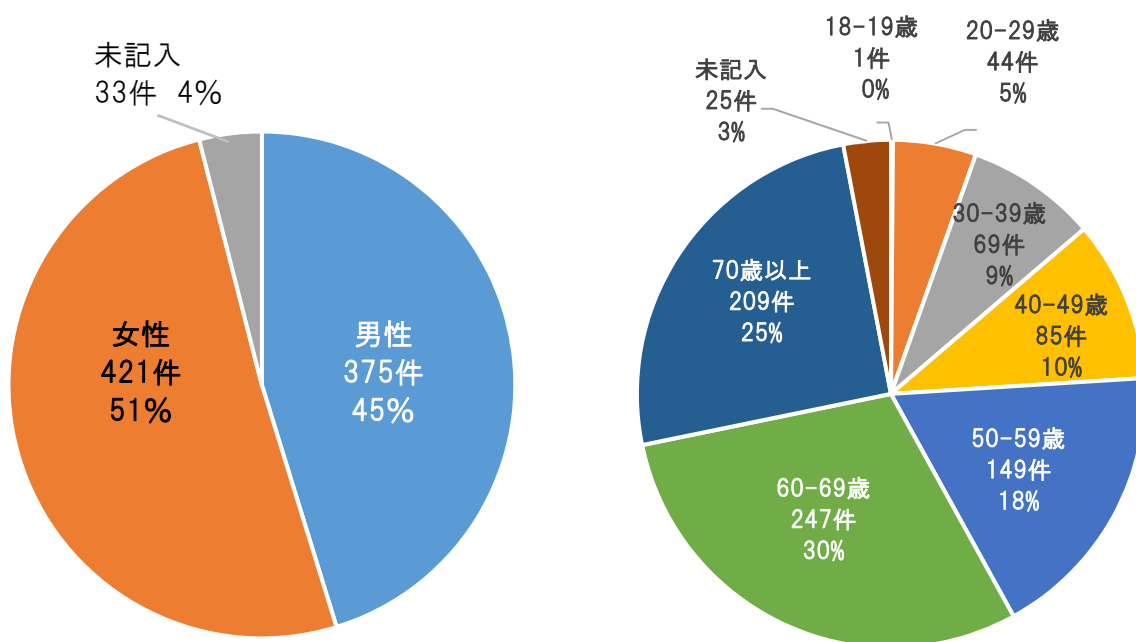


図1. 回答構成（性別）

図2. 回答構成（年齢別）

【3 調査結果】

第5次垂水市総合計画に定められた28の政策展開について、「重要度」と「満足度」を5段階で評価いただき、各政策の平均値により順位をつけました。

政策展開項目					
1	農業における経営基盤確立による経営規模の拡大	11	就労の促進と多様な働き方の支援	21	災害後の復旧・復興対策の迅速な対応
2	農業における担い手の育成・確保	12	子育て環境の整備・支援と母子保健の推進	22	安心して暮らせる社会の構築
3	農業における産品の高付加価値化	13	生きる力を育む質の高い教育の推進と青少年の健全育成	23	環境美化の推進
4	林業における多面的機能の増加	14	生涯学習・生涯スポーツの推進	24	生活排水処理対策と河川、海の水質保全の推進
5	水産業における経営基盤確立による経営規模の拡大	15	歴史民俗文化財や埋蔵文化財の保存・活用と芸術文化活動の推進	25	ごみ処理対策の推進
6	水産業における産品の高付加価値化	16	健康づくりの推進と医療体制の充実	26	省エネルギー、再生可能エネルギーの推進
7	水産業における所得向上の取組	17	介護予防、生きがいつくりの推進と居宅サービスの充実	27	快適な居住環境の整備
8	商工業における市内事業者の育成・支援	18	障害者等福祉の充実	28	交通の利便性の向上
9	観光の振興	19	地域防災力の向上		
10	市内産業の振興と企業誘致の推進	20	災害に強い都市基盤の整備		

●重要度は、「災害後の復旧・復興対策の迅速な対応」が最も高く、2位は「災害に強い都市基盤の整備」となりました。

●満足度は、「介護予防、生きがいつくりの推進と居宅サービスの充実」が最も高くなり、2位は「健康づくりの推進と医療体制の充実」となりました。

●ニーズ値は、「災害に強い都市基盤の整備」が最も高く、2位は「災害に強い都市基盤の整備」となりました。

【重要度】

順位	政策名
1	災害後の復旧・復興対策の迅速な対応
2	災害に強い都市基盤の整備
3	地域防災力の向上
4	介護予防、生きがいつくりの推進と居宅サービスの充実
5	子育て環境の整備・支援と母子保健の推進
6	ごみ処理対策の推進
7	安心して暮らせる社会の構築
8	健康づくりの推進と医療体制の充実
9	就労の促進と多様な働き方の支援
10	生きる力を育む質の高い教育の推進と青少年の健全育成

【満足度】

順位	政策名
1	介護予防、生きがいつくりの推進と居宅サービスの充実
2	健康づくりの推進と医療体制の充実
3	ごみ処理対策の推進
4	地域防災力の向上
5	水産業における産品の高付加価値化
6	歴史民俗文化財や埋蔵文化財の保存・活用と芸術文化活動の推進
7	環境美化の推進
8	災害後の復旧・復興対策の迅速な対応
9	水産業における経営基盤確立による経営規模の拡大
10	障害者等福祉の充実

【ニーズ値】※重要度-満足度

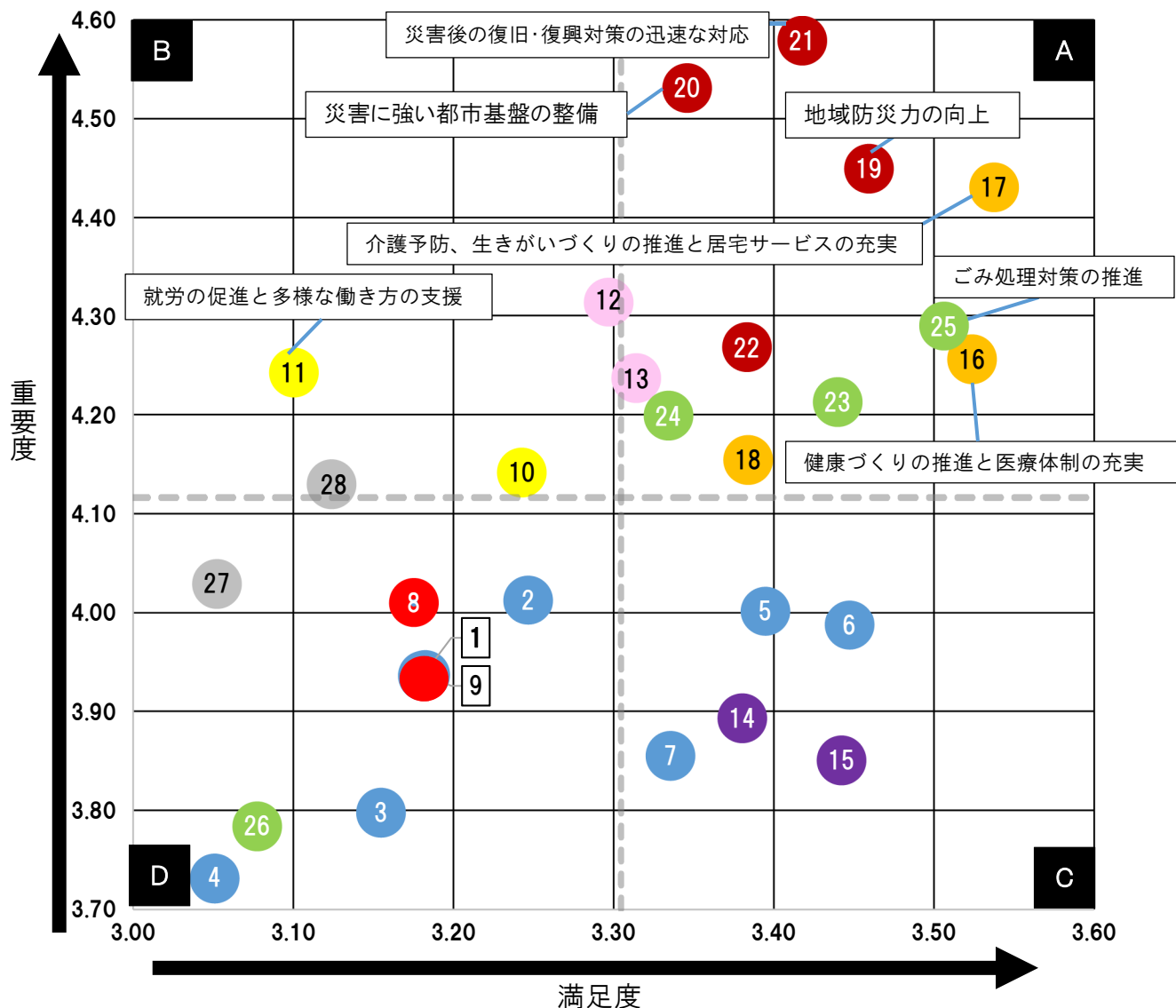
順位	政策名
1	災害に強い都市基盤の整備
2	災害後の復旧・復興対策の迅速な対応
3	就労の促進と多様な働き方の支援
4	子育て環境の整備・支援と母子保健の推進
5	交通の利便性の向上
6	地域防災力の向上
7	快適な居住環境の整備
8	生きる力を育む質の高い教育の推進と青少年の健全育成
9	市内産業の振興と企業誘致の推進
10	介護予防、生きがいつくりの推進と居宅サービスの充実

●重要度・満足度の相関分析

重要度を縦軸、満足度を横軸としてクロス分析を行いました。

エリア	相対分布図の位置	分析項目
A	満足度も重要度も高い	現在の水準を維持する項目
B	満足度は低く、重要度は高い	優先して改善の必要がある項目
C	満足度は高く、重要度は低い	改善の必要性が低い項目
D	満足度も重要度も低い	現状維持、又はあり方について検討する項目

図3 相対分布図



今回調査においては政策分析と回答者の負担軽減を図るため、28の政策展開で重要度、満足度の評価をいただき、9つの政策区分で意見記述をいただきました。結果として、前回の調査と比較すると回収率が若干減少していますが、配布数の8割以上の回答がありました。今後、より多くの市民ニーズを捉えるために、政策に関する意識の向上に努める必要があります。

結果分析としましては、前回調査において重要度及びニーズ値が最も高かった「医療体制の充実」に該当する項目は、今回の調査で、満足度が非常に高く、要因として平成29年度より始まった「たれみず元気プロジェクト」の効果が考えられます。そして、今回の調査で重要度及びニーズ値が上位となりました「災害に強い都市基盤の整備」「災害後の復旧・復興対策の迅速な対応」は度重なる台風や長雨による全国的な災害が影響し、意識の向上に繋がったものと考えられます。

【4 今後の居住志向】

前回の調査に引き続き、「あなたは今後も、垂水市に住み続けたいと思いますか？」の質問項目を設け、5段階評価とその理由をお答えいただきました。

回答は758件あり、平成28年調査時と比較して、「住み続けたいと思う」の割合は2.7%低下し、「どちらかといえばそう思う」は3.1%低下している。一方、「どちらかといえばそう思わない」の割合は0.5%上昇し、「住み続けたいと思わない」は1.1%上昇している。また「どちらともいえない」の割合が4.1%上昇している。この結果、「居住志向がある（5・4を選択）」とした人が、合計478人（63.0%）、「居住志向がない（2・1を選択）」とした人が、合計88人（11.6%）という結果となりました。

		5 : 思う	4 : どちらかとい えばそう思う	3 : どちらとも いえない	2 : どちらかといえ ばそう思わない	1 : 思わない
回答 数	R1	314件	164件	192件	56件	32件
	H28	366件	205件	176件	57件	26件
回答 割合	R1	41.4%	21.6%	25.3%	7.4%	4.2%
	H28	44.1%	24.7%	21.2%	6.9%	3.1%
	差	▲2.7%	▲3.1%	4.1%	0.5%	1.1%

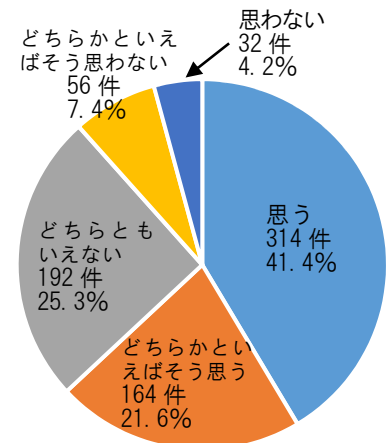


図4 居住志向割合

回答結果のうち「住み続けたいと思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合は、全体の約6割を占めており、居住志向は高いと言えます。しかし、前述のとおり、「垂水市に住み続けたいと思う」と考える割合が減少しており、全体の平均値も減少していることから、28の政策を取り組む際に、住み続けたいと思わない理由として挙げられたことに対して改善を行い、満足度及び居住志向を高めていく取り組みが必要です。

【5 まちづくりの進め方について】

第5次垂水市総合計画を実現していくための「まちづくりの進め方」に関する回答について検証を行いました。

	まちづくりの進め方	ニーズ値	重要度	満足度
1	市民と行政の協働によるまちづくり	0.628	3.870	3.241
2	健全で安定した行財政運営の推進	0.704	3.971	3.267
3	隣接市等との広域連携の推進	0.820	4.042	3.222

ニーズ値及び重要度の平均値は、「3 隣接市等との広域連携の推進」において高い傾向にあります。また、自由意見の中でも「広域交通ネットワーク」及び「人口減少対策」に関する記述が多く見られ、市民の関心及びニーズの高さが伺えます。

このことから、医療や福祉、教育や防災、商業など多くの分野において近隣自治体と連携を高めるとともに、錦江湾横断道路実現を含む市民生活の利便性を確保するための「広域交通ネットワーク」の整備を推進するとともに、現在、本市の重点プロジェクトに掲げる「まち・ひと・しごとの創生」による「雇用、移住定住、結婚・出産・子育て支援、地域連携」に関連する事業を推進し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、持続性のあるまちづくりを進めていく必要があります。